

青空通信

平成30年7月30日

発行：北九州市

私立保育園連盟

青年会議

発行人：橘原 義晃

編集人：青年会議広報部

宮原 健輔

《青年会議 会長挨拶》

橘原 義晃（ひびきの保育園）

子育て支援施策として、保育の量的拡充と質の向上を目的とした「子ども・子育て支援新制度」が施行され三年が経過しました。政府は平成二十九年十一月に「子育て安心プランを前倒して進める」という旨の発表をし、平成三十年度は厚生労働省の主要施策として予算概算要求が行われました。更には、子育て安心プランの柱として平成三十年度～三十一年度末までに待機児童解消に必要な受け皿約二十二万人分の予算を確保し、平成三十年度～三十四年度末の五年間で女性就業率八十%を目指すために、約三十二万人分の受け皿を整備することを目標に掲げています。待機児童対策会議（厚生労働省）においても、処遇改善のほか、保育士資格の新規取得や、就業継続支援、離職者の再就職支援などの人材確保対策を総合的に取り組むとされているところでもあります。北九州市においても「元気発進！子どもプラン（第二次計画）」に基づき保育園の入所定員拡大に向けて、小規模保育事業等の整備計画が示されていますが、保育士の確保や離職防止が喫緊の課題となっています。

このような保育を取り巻く情勢に対し、私たち青年会議は今一度しっかり足元を見据え、子どもの最善の利益のために新しい知識を身につけていきたいと思います。

先日、北九州市は子育て環境の充実度などを

評価するNPO法人「エガリテ大手前」の「次世代育成環境ランキング」政令市部門で二〇一七年度までの七年間連続してトップになったとの報道がありました。私たち青年会議も（公社）北九州市私立保育園連盟と緊密に連携を図り、行政や関係諸団体とも積極的に交流を深めながら、活動を真摯に取り組んで行き、全国に誇れる組織づくりを目指していきたいと思えます。今後ともご指導をお願いするとともに、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

《活動報告》

五月九日、十日	全国私立保育園青年会議第一回幹事会
七月十九日	九州保育三団体青年部協議会代表者会議
八月五日	運動会種目及び職場内研修担当職員研修会 第三十七回公益社団法人
八月二十四～二十五日	全国私立保育園連盟青年会議 札幌大会
八月三十日	北九州市議会議員との勉強会
九月二日	保育まつり参加 西日本総合展示場
十月二十四日～二十五日	第四回九州保育三団体青年部会研修会 鹿児島県大会
十一月八日	全国私立保育園青年会議第二回幹事会
一月十八日	九州保育三団体青年部協議会セミナー 宮崎県
二月十一日	研修会及びOB会
二月十九日～二十日	全国私立保育園連盟 青年会議 第十三回特別セミナー
三月二十九日	平成三十年度 予算総会
五月十七日	平成二十九年年度 決算総会
毎月	例会

【運動会種目及び職場内研修担当職員研修会】

（日 程）平成二十九年八月五日

（場 所）小倉南体育館

スポーツクラブ《トライル》の監修・指導による、運動会種目及び職場内研修担当者研修会が開催されました。

研修ではまず、運動会で使える競技種目・マッゲーム研修と題して、①子ども種目競技②親子種目競技③マッゲームを実際に身体を動かして行いました。どの種目も詳細な資料になっていたのですぐに活用できるものとなっており、楽しく行うことができました。次にトライル代表の三岡大氏による基本的なマッゲームの指導をして頂きました。動作を素早く、さり気なく行う事など難しい部分もありましたが、練習するとできそうなものも多くありました。これも詳細な資料になっていたので繰り返し取り組み、誕生会やちょっとした時間などで活用していきたいと思えます。

池田保育園 阿部 大吾

【全私保連青年会議 札幌大会】

（日 程）平成二十九年八月二十四日～二十五日

（場 所）札幌パークホテル

札幌市にて開催された全私保連青年会議札幌大会に参加させていただきました。

大会第一日目、今大会のキーワードでもある『ACTION43。青年も大志を抱け！』をもとに、七つの分科会が用意されていました。私は、第一分科会に参加させていただきました。

パネラーに柘植信秀氏（公社）全国私立保育園



連盟青年会議会長）志賀口大輔氏（社福）日本保育協会青年部部长）脇淵竜舟氏（公社）全国私立保育園連盟青年会議副会長）大西宏幸氏（社福）日本保育協会青年部副部长）コデー

イネーターに菊地秀一氏（一社）札幌市私立保育園連盟会長）を迎えての同世代のフリースタイルトークセッションで始まり、私たち保育者に向け、多園展開、地元密着、処遇改善、ICT化、キャリアアップ、担い手不足、少子高齢化、指針改定、保育所における教育、制度改革、地域貢献、広報戦略：等、これから取り組みたいこと、どのような思いで子どもたちを見つめるのかなど様々な論議があり、大変意義深い研修となりました。

大会第二日目は平野 弘和氏（公社）全国私立保育園連盟常務理事）の情勢報告で始まり、記念講演では、「世界七大陸最高峰のスキー滑降」完全達成などで知られる冒険家である三浦雄一郎氏より、「子どもたちの未来へく世代を超えて紡ぐもの・挑戦し続ける原動力」と題したご講演をいただき、自身の体験を通して、父から子へ、そして次世代へと紡ぐ、子どもたちの未来のために今大切なこと、そして「挑戦し続ける原動力」について熱く語っていただき今回の講演は締めくくりとなりました。研修会の全てに北海道

らしさが活かされていて、とても魅力のあるものでした。今回の札幌大会を通して、他県の青年会議の先生方との意見・情報交換をするなかで保育方針、内容など様々な面で「保育」の深さを改めて再認識し、講師の方や、他県の先生方との交流をすることで、あらためて自園の取り組み等、考え直し、見直していく良い機会になりました。もう一度、自園の取り組み、自分の保育観を見つめ直していきたいと思えます。

本城西保育園 橘原 法道

【市議会議員との勉強会】

（日 程）平成二十九年八月三十日

（場 所）八雲亭

小倉北区の八雲亭にて北九州市議会議員との勉強会を開催いたしました。今回は保育制度の問題、待機児童問題、保育料滞納問題など様々な議題で勉強会が進行し、疑問点や改善方法など活発な意見交換が行われました。その中でも、保育士確保の問題について議員の方から様々な意見を頂きました。北九州市では北九州市保育士・保育所支援センターでの取り組みを行っていること。（公社）北九州市私立保育園連盟では北九州市保育園フェア二〇一七の状況などを報告しました。また各園での保育士確保の取り組みなどの意見交換を行い、市議会議員の方からは保育業界だけではない雇用問題などのお話がありました。今回の勉強会には若手議員の方にも多く参加していただき、同年代同士、有意義な勉強会が出来ました。今後も市議会議員の方との交



流を深め、議会・行政に声を出して保育を伝えていき、北九州市の子どもたちが少しでも良い保育環境の中で、良い成長ができるよう努めていかなければと感じました。

浅川保育園 上原 剛

【第四回九州保育三団体青年部研修会

鹿児島県大会】

（日程）平成二十九年十月二十四日～二十五日

（場所）鹿児島サンロイヤルホテル

九州各県より約一九〇名の青年保育者が集い大会テーマ「共に歩もう、未来への挑戦！～人口減少社会にどう立ち向かうか～」のもと開催された。

一日目、開会式に引き続き、（公社）全国私立保育園連盟青年会議会長柘植信秀氏と（社福）日本保育協会青年部部長志賀口大輔氏による情勢報告が行われた。全私保連青年会議の活動についてと日本保育協会青年部の取組についての説明がそれぞれなされ、子ども・子育て支援新制度の今後の展望等について青年保育者らしい議論がなされた。その後、松居和氏による講演『「子育てから生まれる親心と絆」～幼児の願いを考えずに少子化対策を進める愚～』と題しての講演が行われた。政府の子ども・子育て支援新制度は、四十万人の「保育の受け皿」を用意するという幼児の最善の利益が優先されることなく、

保育士たちの気持ちを考えることなく、受け皿だけ「待機児童をなくす」という掛け声のもとに増やしていった結果、親たちの「子育て」の意義が変わり、〇・一歳児を預けることに躊躇しない親が増加し、それが待機児童に拍車をかけ保育現場を追い込んでいくことになっている。このようなことを踏まえ、子どもたちの幸せを願い、子どもの気持ちを優先した保育をする等、私たち青年保育者を含め保育界がしっかりと発言する時期がきているのだと痛感させられた。

二日目は、東京家政大学子ども学部教授那須信樹氏による講演『「期待される」専門性から「求められる」専門性』と題して講演が行われた。平成三十年度に保育所保育指針が十年ぶりに改定され、あわせて幼保連携型認定こども園教育・保育要領も整合性をはかり改訂される。

平成二十九年三月三十一日に告示され、いづれも平成二十九年度が周知期間として位置付けられている。改定についての理解を深め、それを踏まえた保育の展望について学び、さらなる保育の質の向上に寄与しなければと思う。その後、東京大学公共政策大学院客員教授・野村総合研究所顧問増田寛也氏による講演「地方創生に、今、必要なこと」と題して講演が行われた。人口減少・少子化対策は大都市圏の自治体も含め全ての自治体を取り組まなければならない喫緊の課題である。今後の日本はどうなるのか、人口減少社会の最新の動向とそれに伴う課題を把握し、少子化対策について改めて考えさせられた。最後

に鼎談「地方組成と子ども・子育て支援」と題してコーディネーターに増田寛也氏、シンピジストに鹿児島県大島郡徳之島町長高岡秀規氏、保育園を考える親の会代表普光院亜紀氏をむかえシンポジウムが行われた。人口減少社会に立ち向かう上で最も重要な柱である少子化対策・子育て支援について、行政の目線、保護者の目線、そして私たち青年保育者の目線からこの課題解決に向けて意見交換を行った。

日本の人口減少は急速に進み、今後の国のみならず地方自治体のあり方そのものにも大きな影響を及ぼすこととなる。人口減少・少子化対策は、今取り組まなければならない喫緊の課題である。また、保育ニーズを見ても、新制度が施行され三年が経過し、需要の増加が著しい地域とそうでない地域の二極化が進んでいる。私たち青年保育者は、このような問題を真摯に受け止め、常に子どもたちを中心に、確固たる信念を持ち、保育の本質を探究すること、情熱を持って行動することが大切なのではないかと思う。二十年后、三十年後の民間保育園のあり方、それぞれの園の方向性を考えていかなければならないのではないかと、思う研修大会であった。

幸神保育園 田中 信一郎

【九州保育三団体青年部協議会セミナー

宮崎大会】

（日程）平成三十年一月十八日

（場所）宮崎観光ホテル

我々は行政から待機児童問題の解消を求めら

れる一方で、迫りくる少子化問題への対策をもとめられる。九州保育三団体青年部協議会セミナーin宮崎。一見相矛盾した問題への対応を求められる我々にとって一筋の光となりうる有意義な時間となった。

テナントミックスサポートマネージャー木藤亮太氏は通称「九十万の男」の油津商店街再生プロジェクトを成し遂げた方であった。その話は一見保育園経営とは離れているようにも感じた。しかし北九州市内に点在する空き家の有効利用の働きかけなどが想定される今、低コストでの新規事業の立ち上げに役立ちうる話であった。

(公社)全国私立保育園連盟青年会議副会長脇淵竜舟氏は私たちより先に少子化、定員割れに直面しつつも、IT知識を駆使しその難題に立ち向かい続ける方だった。園内だよりを雑誌風に見せる。園の広報ビデオにドローンを採用する。



保育写真を写真集として冊子化する。その他広告媒体を独自に体系化し、どの局面でどの広告が有効かなど独自の視点を提供してくれた。LINEのスポット広告は近隣ユーザーのみをターゲットにしたとても面白い方法であった。

杉の実乳児保育園 岡本 一

【全私保連青年会議 第十三回特別セミナー】

〈日程〉平成三十年二月一九日〜二十日

〈場所〉東京都 浅草ビューホテル

一日目は、「リーダーとしての訴求力と地域を巻き込む力」というテーマで、四人のパネリストの方が「これからの保育を考えた上で、今必要なことは何か」といった経営者側の視点からそれぞれの意見を述べていました。

二日目は、「ローカルから生まれる価値が地域を変える」九州パントリーキ世界への挑戦」というテーマで、村岡浩司氏による講演会で、設立から現在に至るまでの苦難とドラマを話していただきました。

一日目、二日目ともに、これから起こる少子化に向けて、経営面について問う内容でした。まずは、



は、「自分の地域や園の特色はどういったことか」ということを踏まえたうえで、「その環境を活かすためには、どのように動けばよいのか」といったことを考えさせられました。

大浜保育園 田中敏也

【研修会及びOB会】

〈日程〉平成三十年二月十一日

〈場所〉ちよろ松

(公社)北九州市私立保育園連盟橘原淳信会長による研修が行われた後、青年会議OBの先生方と年に一度の懇親会が開催されました。OBの諸先輩方に青年会議の歴史を教わったり紐解いたり楽しい時間を過ごさせて頂きました。

最後には恒例となりました青年会議とOBの方々との記念撮影をし、会を締めました。

【平成三十年度 予算総会】

〈日程〉平成三十年三月二十九日

【平成二十九年年度 決算総会】

〈日程〉平成三十年五月十七日

【新会員の紹介】

青年会議に左記の新会員が加わりました。新たな力が加わった新生青年会議を本年度もどうぞ宜しくお願い致します。

杉の実乳児保育園：岡本 一

長浜保育園：岡村 信一郎

光保育園：江田 正俊

三ツ葉保育園：藤井 康介

〈編集後記〉

保育を取り巻く情勢が目まぐるしく変化しております。私たち青年会議は常に子どもたちの最善の利益のため、今後も活動を真摯に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻をお願い致します。

